



元気とタイムリーな情報を提供する

# 五十嵐レポート

発行:「町コン」五十嵐 勉 2019年08月19日 第932号「週刊五十嵐レポート」

## 気になる新聞記事

8月14日付、日経新聞に、パナソニックの創業者(松下幸之助氏)の孫の松下正幸特別顧問のインタビューがあった。日本電産や村田製作所など創業者や創業家の影響が強い会社が、競争力を高めています、との問いに、「京都企業は事業分野は狭いがそれに集中している。ここにしか生きる道はない、という必死の思いが会社をまとめる推進力になっている。逆に当社にはいろんな事業がある。『これがうまくいなくてもこっちがあるからいいや』と思うかもしれない。そういう弱さは内蔵している」。現在のパナソニックの業績は厳しいです、との問いに、「創業者だったら、『謙虚に反省しなさい。何をすべきか素直に考えてその道に向かい血尿が出るくらいの努力をすれば必ず成功する』というだろう」。

同日付、日経新聞に、ドイツ・ミュンヘン工科大の記事。欧州を代表するミュンヘン工科大学がロボット工学と人工知能で健康・労働・移動の分野を軸に、実際の人間のニーズに即した研究をしている。米国と中国など人工知能で先行する地域と一味違う欧州らしさを打ち出している。「我々がつくるロボットは生活や通信の仕方や働き方を変える道具。恐れを抱かせることなく未来に社会が到達することを手助けする。ドイツは小さい国だから米国や中国とまともにぶつかっても勝ち目はない。エンジニアリングとコンピュータサイエンスの懸け橋という強みを突き進めるべき。この強みはまだ中国と米国は持っていない」。

8月12日付、日経新聞に、「イオン中国で自前のネットスーパー」の記事。現地の自社約70店舗から商品を配送する。中国は流通業のデジタル化で世界の先端を走っており、ノウハウを吸収し日本への逆輸入を検討。

お盆休み中の気になった記事を書かせてみた。小さな会社が生き残るヒントがある。元気な京都企業とパナソニックの違い。ドイツといえども、中国と米国とはまともに戦わない。イオンは素直に中国を師として学ぶ姿勢。私はこの3ヶ月で2度中国を訪問し、学ぶ点は多々あった。しかし、日本にあって中国にないものはある。付け入る隙はある。

ちょっと  
気になる出来事

8月16日付、日経新聞に「悲しみの前、熱狂があった」という記事。

8月は「戦争」がメディアにあふれる季節である。やはり「8・15」の意味は大きい。そこには落とし穴もある。別の覗き窓から戦争を眺めるとき、相貌は大きく異なる。

1937年に日中戦争が起きた当時、政府は8月15日に「暴支膺懲(ぼうしようちょう)」声明を出す。暴挙な中国を懲らしめるという意味。敗戦の8年前の8月15日。世論の沸騰ぶりはただならぬものだった。文化人も積極的に戦争に加わっている。庶民も文化人も熱に浮かされていた。

なんと熱狂しやすい国民性だろう。それをあおったメディアの責任も大きい。当時は物質はまだ十分に出回り、大衆娯楽も息づいていた。そんな日常のなかで、戦争は泥沼化していった。戦争とはある日突然始まるのではなく、日常と重なりつつ進んでいく。やがて迎えた「8・15」。

熱狂の代償の大きさ。熱狂は、冷静な判断を押し流す。

歴史から学ぶ。経済でも同じ。熱狂のあとは、暴落がついてくる。

真実を見極める力が必要。ヒントになるのは「数字はウソつかない」。



一口メモ  
知識

## 妄想の猛毒

妄想は猛毒です。

妄想があるがゆえに、ストレスが起きます。

妄想があるがゆえに、人生何をしても苦しみと失敗で終わるのです。

だから、まずやるべきことは妄想を停止させることです。

「ブッダの教え一日一話」(PHP研究所/アルボムツレ・スマナサーラ)より

●「戦略社長塾東京」小岩校 毎週日曜日・水曜日 午前10時～12時

●「戦略社長塾東京」小岩校 土曜隔週(第2・第4) 午後2時～6時

●「戦略社長塾東京」銀座校、武蔵村山校、豊岡校 開講中。

㈱五十嵐コンサルティングオフィス 〒133-0051東京都江戸川区北小岩6-21-5

TEL03-3659-7703 Fax03-3659-7077 i-daruma@igarashireport.com

